

プチトマトの話 ～プラス思考の大切さ～

5月も中旬を迎え、新緑が鮮やかな季節になりました。先日、コリウスの水やりをしているとき、誤って枝を折ってしまいました。折れた枝は捨てるしまおうかとも考えましたが、次のような話を思い出しました。

Yさんのお母さんは家庭菜園でいろいろな野菜を栽培しています。採れた野菜は毎日のように食卓に上ります。去年の夏、お母さんはプチトマトの苗を買ってきて庭に植えました。どれもすくすく育っていたのですが、お母さんはうっかりその中の1本を踏んでしまいました。慌ててようすを見ると、完全に折れているわけではありませんでした。



そこでお母さんはあるものを使って、もう一度茎を元に戻そうとしました。その「あるもの」とは何と「セロハンテープ」でした。Yさんは「そんなもので元にもどるはずがないよ。枯れてしまうんじゃない。」と言いましたが、お母さんは「かわいそうじゃない。割り箸を添え木にすれば大丈夫。」と答えました。その後、毎日のようにそのプチトマトの茎を見ていましたが、驚いたことにそのプチトマトは枯れませんでした。細く、弱々しい感じでしたが、茎はちゃんとつながっていました。そして、お母さんの願いが通じたのか、ちゃんと実をつけたのです。しかし、他のものに比べて小さな実でした。

ある日、例のプチトマトが食卓に上りました。家族は誰も手をつけようとしませんでした。お母さんがその一つに手を伸ばしました。「甘い！」お母さんは声を上げました。Yさんも半信半疑で食べてみたところ、予想外のおいしさにびっくりしてしまいました。普通のプチトマトの何倍も甘く、皮も柔らかかったのです。

トマトは水や肥料などあまり与えず、厳しい環境で育てた方がおいしくて甘くなるそうです。茎が折れかかり、かろうじてつながったあのプチトマトは、必死で水や栄養をとり、葉や実に送り届け、一生懸命に生きようとしたのでしょう。Yさんはプチトマトの生命力と、一生懸命生きようとする姿に感動したのだそうです。

私たちは「条件が悪いから、〇〇することができない」と考えてしまうことがあります。「場所が悪い」とか「タイミングが悪い」、「〇〇がないからダメだ」……と、きりがありません。例えおかれた条件が悪くても、その中で前向きに考えることが大切だと思います。「こんな悪条件で私は不運だ」と考えると、その時点で思考がストップしてしまいます。どんな時でもプラス思考で「できる」と思っていると、不思議なもので自然といい考えが浮かんできます。前向きな気持ちは条件の悪さにきって打ち勝つでしょう。自分を成長させてくれる大きな力となり、肥料となってくれるはずです。



最初から「できない」ことを前提にせず、「どうしたらできるか」を考えてほしい。「不可能」と「困難」は違うのである。〈西川晃一郎〉

どんなときでもプラス思考で考え、「できる」という思いをもって行動したいものですね。ちなみに、折れたコリウスの枝は、挿し芽として植えてみることにしました。

